

なぜ、宇治がお茶の産地なの？

馬の跡の跡に
茶の種を
植えなさい

宇治茶のはじまり

今から約800年前の鎌倉時代初期、栄西禅師が宋に渡り、お茶の喫茶習慣を学びました。その後、栄西よりお茶の種を譲り受けた明恵上人がお茶の生育に適した土地柄であった宇治にお茶の栽培方法を伝えたのでした。

天下人に愛された宇治茶

宇治で発展した抹茶は各地に広まっていき、室町時代には足利三代將軍義満により、優良な六つの茶園が定められました。16世紀ごろには、霜から茶樹を守るため、茶園に棚を作り葎を敷いて藁をふく「覆下園」での栽培が始まりました。豊臣秀吉は「覆下園」で栽培された、渋みが抑えられ甘味豊かなお茶を庇護するために、宇治以外で覆下栽培を禁じました。これにより宇治茶の名声はさらに日本中に広がったのです。

※後に琵琶園が加わり「宇治七茗園」とされる。



千利休

豊臣秀吉

現在でも愛されるお茶

それから約100年後の明治初期、覆下園で栽培された抹茶に使用する貴重な茶葉を使用し、当時飲まれていた煎茶の製法を用いて、新しいお茶が作り出されました。後に玉露と名付けられたそのお茶は独特の甘くまろやかな味と香りで、現在でも高級なお茶として人気があります。

